

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101351		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか		
所在地	静岡県沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	令和5年10月21日	評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvoyoCd=2271101351-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvoyoCd=2271101351-00&ServiceCd=320&Type=search)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 11月 20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念でもあるように健康で穏やかな毎日を送れるように職員一人一人は、認知症の症状を理解してその方を知り一人の人として接する事、関りを多く持つこと、入居者様を第一に考えて理念に基づく支援に努めています。

法人は複数の事業所を経営しており、管理者会議・職員研修を毎月行い、管理者の情報共有・意見交換と職員のスキルアップを図り、法人理念に基づく事業所運営の支援に努めている。コロナ禍制限緩和を受け、事業所周辺の散歩での地域住民との挨拶、お祭りへの出店、地域行事への参加など、地域住民との交流を再開している。毎月事業所のお便りにて利用者の近況を報告し、コロナ禍でも家族との信頼関係の構築に取り組んできた。管理者は、個人面談や全体会議等を活用して職員からの意見抽出に努めている。職員は、全員で利用者のカンファレンスを行い、生活リハビリを目的に、食事準備・清掃等を利用者と共に行い、利用者の能力に合わせた支援を心掛けている。月2回の訪問診療では事前に「往診表」を送り、看護師・薬剤師と共に迅速に対応できる仕組みを整えている。定期的な清掃・換気・消毒により、清潔で安全な環境作りに努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム玄関に掲示して管理者と職員は共有できるように、また、意識づけるようにし実践に繋げるようにしています。	法人本部は複数の事業所を経営しており、地区別に月例の管理者会議を行い、法人理念と情報の共有を図っている。管理者は、毎朝の申し送りや全体会議・ユニット会議にて職員と情報を共有し、理念に基づく支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会しています。回覧板をお隣の方へ入居者様と一緒に渡しています。防災訓練や清掃活動・お祭りに参加して交流するようにしています。	制限緩和を受けて、日課の散歩時に地域住民と挨拶を交わすなど、コロナ禍前の交流を取り戻している。地域神社の祭り(下石田まつり)への出店や自治会清掃活動等に参加し、職員・利用者とともに地域交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の地域の方は事業所を理解してくださっていますが同じ地域内でも離れた所だと事業所のことを知られていません。認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開催し、第1,2回は書面でしたが第3,4回は対面で行うことが出来ました。地域包括等からの意見をサービス向上に繋げています。	行政・地域包括支援センター職員、民生委員・自治会長、家族代表の参加により2か月に1回開催している。行事・研修やヒヤリハット等、事業所の近況を報告して委員それぞれの立場からの意見を聴き取り、事業所運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会や近隣商店、近隣住民の方々等にホーム内での実情を伝え地域の方とネットワークを築いています。	地域包括支援センターと常に連絡をとり、開催行事に積極的に参加して、協力・連携できる体制を整えている。沼津市北部のGH連絡会に参加し、行政や他法人事業所との意見交換を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を年4回実施しており、委員のメンバーが中心となりホーム内で勉強会を開催して、職員が正しく理解でき、又実践出来る様に取り組んでいます。玄関の施錠は防犯上を含めて施錠することになりました。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。年2回法人の職員研修など、ホーム内で勉強会を行い、全職員が身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。委員会や社内研修では、虐待防止についても研修を行っている。	「高齢者虐待防止に関する指針」の策定や研修の実施について、24年度から単独で義務付けられることから、身体拘束に関する委員会や研修の実施は、虐待防止と区別して行う体制整備を期待します。

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会と共に年4回委員会を開催し、職員全員に伝わる様に勉強会を開き、周知徹底するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について学ぶ機会は持てていませんが個々の必要性等は職員に伝えて職員から連絡を取り合えるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明をしています。変更点があれば書面を送付し理解していただくよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族からいただいた意見・要望は職員へ伝えホーム内で解決できるように話し合っ業務に繋げています。	家族の面会訪問は、緩和措置に伴い、今年度5月から以前の状態に戻し、家族とのコミュニケーションを図っている。毎月利用者の写真と職員のコメントを添えた「お便り」を郵送し、利用者の近況報告をして信頼関係の構築に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議等で意見や提案を聞く場を設けています。	管理者は日頃から職員との会話を心掛け、職員からの意見の聴き取りに注力している。法人内研修や自己評価を基にした個人面談(年2回)を行い、職員のスキルアップに努めている。職員は、日々の申し送り、全体会議やユニット会議にて情報共有と意見交換を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を設けて管理者や職員の自己評価・面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人研修を開催したり、介護業務マニュアル実用化に向けて評価制度を設けて取り組んでいます。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市北部のグループホーム連絡協議会にてメールでの取り上げてほしい課題や運営状況等連絡し合い、サービス向上に繋げています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や普段の会話から本人の思いを受け止め 職員間で周知したうえで安心できる生活の場を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時だけではなく家族との普段の会話の中から も思いを知ることや近況報告もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止めスタッフ間で話し合いを行ってからサービス導入を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を第一に考え個々にできることを行ってもらい職員と共に生活の場を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況の状況を伝えていき課題があればともに相談しながら支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会だけではなく遠方の知り合いの方とも交流が持てるよう、電話や手紙を使い支援をしている。	コロナ禍でも状況に応じて柔軟に対応し、SNSの活用や窓越し面会、訪問理美容の利用、電話・手紙の活用など、馴染みの人との関係継続のための支援を続けてきた。緩和措置により、コロナ禍前と同様に地域行事に参加して、地域のお祭りの出店時には、馴染みの人との交流ができた。	

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話好きな入居者様を同席にしお互い傾聴し合っている様子見られます。会話を広げ色々な入居者様と関わるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後はあまり接点がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて入居者様の思いを聞き取りスタッフ同士情報を共有している。	入居時の利用者の思いや意向、家族の要望等について、法人地域連携室担当者やケアマネジャーと連携してアセスメント表にまとめ、得られた情報は全職員が共有している。日々の申し送りや職員会議で意見交換をしながら、意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族やご本人にお話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の様子はスタッフ同士情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合い再度モニタリングや計画書の作成見直しに携わっている。	毎月ユニット会議において、利用者全員のカンファレンスを実施している。タブレットを活用した支援経過記録と居室担当者が作成したアセスメント表を基に、該当者の変化や課題について話し合い、介護計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になったことがあればスタッフ同士情報共有を行いケアプランについて話し合う。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスにて意見を出し合ったり本やネットなどの文献を参考にスタッフで共有しサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームで出来ることを取り入れご本人が必要とされていることを意識し日々を送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を取りご家族からも要望があれば主治医に相談して指示にて受診している。	月2回協力医の訪問診療と週1回看護師訪問により、利用者の健康を管理している。利用者の健康状態を事前シート「往診表」に整理して、訪問日前日に連絡しているため、医師は情報を基に迅速な対応ができる。他科診療のための通院は、家族と協力しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、月4回訪問看護師が来所し、健康管理をしています。職員間で情報を共有して対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、医療機関とご家族を交え情報交換や相談をしたり十分に話し合いを行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期において主治医やご家族と話し合いを行い方針を共有している。	重度化や終末期の対応は、入居時に法人作成の指針について説明を行い、利用者・家族の同意を得ている。状態の変化があった場合は、主治医・管理者は再度家族に説明し、家族の意向に沿って対応している。職員は年1回定期的に研修を受け、緊急時や看取り時の対応を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の事故マニュアルを作成し見やすい所定の位置に置いてスタッフに周知徹底している。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。近くの側溝の増水があり垂直避難訓練を行っています。	防災訓練は、年2回テーマを決めて実施している。実際に事業所裏にある側溝の増水を経験し、水害時の避難の対応を確認した。防災委員を配置し、訓練計画策定や法人本部と連携して備蓄品管理を行っている。	訓練実施により得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要なことから、課題を継続した訓練の実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、事業所の現状に即した計画策定の検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時はドアを閉める、プライバシーの保護を守り、認知症でも人格を尊重し自分の親と思い、常に接することを心がけています。	個人情報の取り扱いについて、入居時に利用者・家族の同意を得ている。人格を損なう言葉掛け等の課題については、都度、声を掛けて注意を促すとともに、定期的な職員研修や職員同士で注意喚起できる環境整備を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現や決定できる方が少ない中、いつもと違う様子が見られる時はご本人が選べるような選択できる声掛け言葉かけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないように「〇〇してください。」の声掛けを「どうしましたか?」と声掛けを行うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候により服を選び、色のコーディネートを考え、服を選べる方には選んでいただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ることが出来る、片付けが出来る等、その方の出来ることを見つけて支援しています。	職員は利用者の状態に合わせて、食材を調達し献立を決めて、準備・食器洗い等を行い、手作りの食事を楽しんでいる。誕生日会や敬老会・クリスマスなど、季節ごとの行事の折には、利用者好みの献立を作り、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝は卵、昼は肉、夜は魚など栄養面でバランスが取れるように、その方に合わせた食事形態で提供しています。摂取量や水分量は毎食後に量を記録し観察を行っています。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	通常の歯ブラシ、口腔スポンジ、口腔ティッシュなどで口腔内の清潔保持するため使い分けしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合わせ声掛けをして無理せず手引き歩行や車いすも利用してトイレにて排泄できるように対応している。	タブレットを活用して排泄状況を記録し、利用者個々の体調や状況に合わせた声掛けを行い、トイレ利用を支援している。安全に配慮して誘導することを心掛け、できる限りトイレ利用を促す支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やフロア周回同行、身体を動かしてなるべく下剤に頼らずに働きかけている。飲食物は、腸内環境に良いものを提供したり水分を多く摂って頂く声掛けを行って対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前中に行っています。今入浴したい等の希望する方はいないですが入浴を拒否する方に対して声掛けを工夫したりご家族に協力していただいたりしている。	週2回・午前を基本として、利用者の体調や希望に合わせて支援している。利用者の状態・希望により、入浴剤の使用やシャワー浴の対応など、気持ちよく、安全に楽しく入浴できるよう工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備、室温調整などを行っています。入居者様の体調を確認するなどして居室で休んで頂いています。夜間帯での入眠状況を申し送りしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の往診時、入居者様の様子を伝え定期薬、眠前薬の見直しをしている。薬剤師も同席しているので薬の内容も詳細に指導していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った出来る事を手伝って頂き、役に立っていると思えるように出来る喜びとなる様に支援しています。また、昔行っていたこと、生きがいにしていたことを思い出してコミュニケーションを図ることにより笑顔が見れるように支援しています。		



静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の業務状況によって散歩や日光浴を行っています。	職員は、20～30分程度の事業所周辺コースや施設内回廊の散歩など、コロナ禍でも工夫して支援を続けてきた。利用者・家族それぞれの希望や体調・興味に合わせて、地域行事の参加や家族との外出など、工夫した対応を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金があり、要望がある入居者様に対して支援は出来ている。ご家族様の要望で自室で管理している方がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人から電話があれば会話が出来るようにしています。ご家族から絵手紙が届くので返事を書くようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除が出来る入居者の方には手伝って頂いたり、環境整備に気を配り、室温等に注意しています。季節感を感じて頂くため、入居者様と掲示物を制作したり飾りつけをしています。	季節に合わせて飾り付けやお花を飾り、季節感を大切に共有空間作りを心掛けている。常時換気と定期的な消毒(手指・手すりなど)や清掃を行い、感染症対策を心掛けている。生活リハビリを兼ねて利用者とともに清掃をして、清潔な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士衝突が起きないように声掛けしたり、日当たりが良いところでは日光浴をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものを持ってきていただいたり、使用していただいている。	エアコン・大きなクローゼットを備えた居室は、定期的な換気と清掃により、清潔な環境作りに注力している。利用者の動線を考え、使い慣れた家具や衣装ケースを利用者が使いやすいように配置し、安全で居心地の良い部屋作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が先回りをして用意するのではなく指示を出したりしてご自分で動いて頂くようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101351		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか		
所在地	静岡県沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	令和5年10月21日	評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2271101351-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101351-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念でもある様に健康で穏やかな毎日を送れるように職員一人一人は、認知症の症状を理解して、その方を知り一人の人として接する事、関りを多く持つこと、入居者様を第一に考えて理念に基づく支援に努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム玄関に掲示して管理者と職員は共有できるように、また、意識づけるようにし実践に繋げるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会しています。回覧板をお隣の方へ入居者様と一緒に渡しています。 防災訓練や清掃活動・お祭に参加して交流するようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の地域の方は事業所を理解してくださっていますが同じ地域内でも離れた所だと事業所のことを知られていません。認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開催し、第1,2回は書面でしたが第3,4回は対面で行うことが出来ました。 地域包括等からの意見をサービス向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会や近隣商店、近隣住民の方々等にホーム内での実情を伝え地域の方とネットワークを築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を年4回実施しており、委員のメンバーが中心となりホーム内で勉強会を開催して、職員が正しく理解でき、又実践出きる様に取り組んでいます。玄関の施錠は防犯上を含めて施錠することになりました。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会と共に年4回委員会を開催し、職員全員に伝わる様に勉強会を開き、周知徹底するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について学ぶ機会は持ていませんが個々の必要性等は職員に伝えて職員から連絡を取り合えるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明をしています。変更点があれば書面を送付し理解していただくよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族からいただいた意見・要望は職員へ伝えホーム内で解決できるように話し合っ業務に繋げています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議等で意見や提案を聞く場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を設けて管理者や職員の自己評価・面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人研修を開催したり、介護業務マニュアル実用化に向けて評価制度を設けて取り組んでいます。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市北部のグループホーム連絡協議会にてメールでの取り上げてほしい課題や運営状況等連絡し合い、サービス向上に繋げています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や普段の会話から本人の思いを受け止め 職員間で周知したうえで安心できる生活の場を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時だけではなく家族との普段の会話の中から も思いを知ることや近況報告もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止めスタッフ間で話し合いを行ってからサービス導入を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を第一に考え個々にできることを行ってもらい職員と共に生活の場を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況の状況を伝えていき課題があればともに相談しながら支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会だけではなく遠方の知り合いの方とも交流が持てるよう、電話や手紙を使い支援をしている。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話好きな入居者様を同席にしお互い傾聴し合っている様子見られます。会話を広げ色々な入居者様と関わるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後はあまり接点がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて入居者様の思いを聞き取りスタッフ同士情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族やご本人にお話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の様子はスタッフ同士情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合い再度モニタリングや計画書の作成見直しに携わっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になったことがあればスタッフ同士情報共有を行いケアプランについて話し合う。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスにて意見を出し合ったり本やネットなどの文献を参考にスタッフで共有しサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームで出来ることを取り入れご本人が必要とされていることを意識し日々を送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を取りご家族からも要望があれば主治医に相談して指示にて受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、月4回訪問介護士が来所し、健康管理をしています。職員間で情報を共有して対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、医療機関とご家族を交え情報交換や相談をしたり十分に話し合いを行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期において主治医やご家族と話し合いを行い方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の事故マニュアルを作成し見やすい所定の位置に置いてスタッフに周知徹底している。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。近くの側溝の増水があり垂直避難訓練を行っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時はドアを閉める、プライバシーの保護を守り、認知症でも人格を尊重し自分の親と違い、常に接することを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現や決定できる方が少ない中、いつもと違う様子がみられる時はご本人が選べるような選択できる声掛け言葉がけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないように「〇〇してください。」の声掛けを「どうしましたか？」と声掛けを行うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候により服を選び、色のコーディネートを考え、服を選べる方には選んでいただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ることが出来る、片付けが出来る等、その方の出来ることを見つけて支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝は卵、昼は肉、夜は魚など栄養面でバランスが取れるように、その方に合わせた食事形態で提供しています。摂取量や水分量は毎食後に量を記録し観察を行っています。		



静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	通常の歯ブラシ、口腔スポンジ、口腔ティッシュなどで口腔内の清潔保持するため使い分けしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合わせ声掛けをして無理せず手引き歩行や車いすも利用してトイレにて排泄できるように対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やフロア周囲同行、身体を動かしてなるべく下剤に頼らずに働きかけている。飲食物は、腸内環境に良いものを提供したり水分を多く摂って頂く声掛けを行って対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前中に行っています。今入浴したい等の希望する方はいないですが入浴を拒否する方に対して声掛けを工夫したりご家族に協力していただいたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備、室温調整などを行っています。入居者様の体調を確認するなどして居室で休んで頂いています。夜間帯での入眠状況を申し送りしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の往診時、入居者様の様子を伝え定期薬、眠前薬の見直しをしている。薬剤師も同席しているので薬の内容も詳細に指導していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った出来る事を手伝って頂き、役に立っていると思えるように出来る喜びとなる様に支援しています。また、昔行っていたこと、生きがいを思い出してコミュニケーションを図ることにより笑顔が見れるように支援しています。		

静岡県(グループホームほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の業務状況によって散歩や日光浴を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金があり、要望がある入居者様に対して支援は出来ている。ご家族様の要望で自室で管理している方がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人から電話があれば会話が出来るようにしています。ご家族から絵手紙が届くので返事を書くようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除が出来る入居者の方には手伝って頂いたり、環境整備に気を配り、室温等に注意しています。季節感を感じて頂くため、入居者様と掲示物を制作したり飾りつけをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士衝突が起きないように声掛けしたり、日当たりが良いところでは日光浴をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものを持ってきていただいたり、使用していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が先回りをして用意するのではなく指示を出したりしてご自分で動いて頂くようにしている。		